

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

本年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、7月末に文部科学省国立教育政策研究所から出された報告書を参考にし、いなべ市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組として以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的とされています。しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後のいなべ市の教育の一層の充実を図ってまいります。

# I 教科に関する調査結果の分析について

## 1 小学校 国語

### 【よくできていた問題】

#### 1三(2)イ 本市の正答率：94.2% (全国の正答率：93.1%)

##### <問題の概要>

- ・問題文【川村さんの文章】の中で、指定箇所(一イ)のひらがな表記部分を正しい漢字と送り仮名表記に直し、3つの選択肢の中から1つ選ぶ問題。

(正答 2)

##### <出題の趣旨>

- ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

##### 【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア**い**がいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ**くら**べてみました。ウ**き**かんは7月1日から15日までです。

#### 2一 本市の正答率：86.2% (全国の正答率：90%)

##### <問題の概要>

- ・問題文【資料1】【資料2】に書かれている内容として最も適切なものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ問題。

(正答 1)

##### <出題の趣旨>

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる。

4	3	2	1	一
運動の 効果や 回数	運動の 場所や 種類	運動の 回数や 場所	運動の 効果や 種類	1から4 までの 中から 一つ選 んで、 その番 号を書 きまし ょう。

相田さんが選んだ【資料1】と【資料2】に書かれている内容として最も適切なものを、次の

【課題となった問題】

1 二 本市の正答率：23.9%（全国の正答率：26.7%）

<問題の概要>

- 問題文【川村さんの文章】の中で、自分が川村さんならどう書くかを、3つの条件を満たしながら書く問題。

(正答例)

- グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

<出題の趣旨>

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- 3つの条件とは、以下のとおりである。

条件1…米作りの問題点について、グラフと資料から分かること  
の記述

条件2…問題点の解決方法について、資料をもとにした記述

条件3…字数制限

- 誤答で最も割合が高いのは、条件1のうち「資料から分かること」の記述を満たさないもので、19.3%だった。次いで高いのは、条件1のうち「グラフから分かること」の記述を満たさないものと、条件1のうち「資料から分かること」の記述を満たさないものかつ、条件2を満たさないもので、ともに16.4%だった。資料やグラフをもとにした記述に、難しさを感じている児童が多いと考えられる。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り除んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に悩んでいた問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アがいに雑草が生えてきて、とてもこまらなりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとよく比べてみました。ウさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
1日	2	1
3日	2	1
5日	2	1
7日	2	1
9日	2	1
11日	2	1
13日	2	1
15日	2	1

このように取り除き、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

条件

○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「ア」のそれぞれから分かることを書くこと。

○ 問題点の解決方法については、「ア」の「ア」をもとにして書くこと。

○ 六十文字以上、百文字以内にとりて書くこと。

※上の用紙は書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※の印から書きましょう。とらうで行を渡さないで、続けて書きましょう。

1三 (1) ウ 本市の正答率：53.3% (全国の正答率：52.8%)

<問題の概要>

- ・問題文【川村さんの文章】の中で、指定箇所（一ア）のひらがな表記部分を正しい漢字表記に書き直す問題。（正答 意外）

<出題の趣旨>

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。（同音異義語）

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア い がいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ くら べてみました。ウ き かんは7月1日から15日までです。

<解答状況>

- ・誤答で最も割合が高いのは、『意』と解答していないが、『外』と解答している」もので、37.5%だった。

2三 本市の正答率：52.4% (全国の正答率：62%)

<問題の概要>

- ・相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する問題。（正答 4）

<出題の趣旨>

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

**栄養素の働き**

規則正しく食事をするにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものばかり食べたりしていると、栄養がかたまってしまい、つかれやすくなったりいららしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーの働きになります。肉や卵などは、主に体をつくるものになります。筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるものになり、病気にかかりにくくなります。

（栄養素の主な働きと食品の例）

主にエネルギーのものになる  

 米、パン、パスタなど

主に体をつくるものになる  

 肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるものになる  

 野菜、果物など

1 自分にとって分からない言葉は四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

2 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

3 自分にとって分からない言葉は四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

4 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

三 相田さんは、食事の節から健康について考えている文章の語句を聞いて、「資料3」に興味をもちました。次は、相田さんが、四角や丸で囲んだ語句について整理している「資料3」です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

<解答状況>

- ・誤答で最も割合が高いのは、「2」と解答しているもので、37.2%だった。どんな情報とどんな情報とを関係付けて整理しているか、十分に理解できていないと思われる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことはできている。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することはできている。
- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(同音異義語)
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

◇図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする。

伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのために、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することが考えられる。また、児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。

さらに推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していく指導も大切にしていきたい。

◇同じ読み方をする漢字を注意して使うことができるようにする。

「意外」、「以外」などの同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。そのために、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、文や文章の中で使うように指導することが重要である。また、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着する指導も充実させていきたい。

◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できるようにする。

目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示することによって整理できるようにすることが重要である。そのために、情報の整理の仕方について、一斉に指導を行うことが大切である。また、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、必要に応じて自分に合った方法を選ぶことができるような指導にも取り組んでいきたい。

## 2 小学校 算数

### 【よくできていた問題】

1(1) 本市の正答率：91.1%（全国の正答率：93.5%）

<問題の概要>

- ・ 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題。（正答 69）

いすの数（きゃく）	1	2	3	4	5
高さ（cm）	45	51	57	63	A

<出題の趣旨>

- ・ 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる。

1(2) 本市の正答率：87.3%（全国の正答率：88.5%）

<問題の概要>

- ・ 椅子の数が2倍になっても、高さが2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。  
（正答例）ア1, イ2, ウ45, エ51

いすの数（きゃく）	1	2	3	4	5
高さ（cm）	45	51	57	63	A

「いすの数が2倍になっても、高さは2倍になっていない」ことを、表の中の数を使うと、次のように説明することができます。

いすの数が  きゃくから  きゃくと2倍になっても、  
高さは  cmから  cmで2倍になっていません。

上のア、イ、ウ、エにあてはまる数を、表の中の数から1つずつ選んで、  
書きましょう。

<出題の趣旨>

- ・ 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる。

**1(4) 本市の正答率：80.7%（全国の正答率：80.8%）**

<問題の概要>

- ・  $50 \times 40$  の計算（正答 2000）

<出題の趣旨>

- ・ 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる。

**2(2) 本市の正答率：91.1%（全国の正答率：87.2%）**

<問題の概要>

- ・ 四角形の名称を答える問題。  
（正答 正方形または、正四角形）

<出題の趣旨>

- ・ 正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。

次に、ゆいなさんは、下のようにつくり方で四角形をつくりました。

**【ゆいなさんのつくり方】**

① 上の直線に垂直な直線オカで切ります。	
② 右の図のように、直線オカが上の直線に重なるように折り、点カが重なったところを点キとし、印をつけます。	
③ 折ったものをもどします。	
④ 点キを通過して、上の直線に垂直な直線キクで切ると、四角形オカクキができました。	

上のつくり方でできた四角形オカクキは、どのような四角形ですか。その四角形の名前を書きましょう。

**【課題となった問題】**

**2(3) 本市の正答率：21.6%（全国の正答率：24.9%）**

<問題の概要>

- ・ 正三角形の角度をとらえる問題。  
（正答 30度）

<出題の趣旨>

- ・ 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・ 「60度」と解答している割合が34%と、正答の割合よりも高かった。問題文の「正三角形」という語だけを見て「60度」と解答したのではないかと考えられる。また、「40度」と解答した割合も20.7%と高かった。これは、ゆいなさんの例を見て20度の2倍の40度を選んだと考えられる。問われていることを正しく把握できていないためと考えられる。

ゆいな ゆいな 私は、④の角の大きさを20°にしました。切った開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。

わたる わたる 私は、切った開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんと同じ大きさにして切りました。

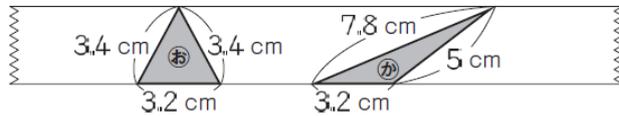
切った開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするべきですか。  
答えを書きましょう。

**2(4) 本市の正答率：11.2%（全国の正答率：20.8%）**

<問題の概要>

- ・テープを直線で切って作った2つの三角形㊸と㊹の面積について、わかることを選択した上で、それを選んだ理由を書く問題。

（正答 3）



- |   |                           |
|---|---------------------------|
| 1 | ㊸の面積のほうが大きい。              |
| 2 | ㊹の面積のほうが大きい。              |
| 3 | ㊸と㊹の面積は等しい。               |
| 4 | ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。 |

（理由例）三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

<出題の趣旨>

- ・高さ $\underline{が等しい}$ 三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・「二つの三角形の面積を比べることができない」と解答している児童が32.3%いた。理由として「高さが分からないから」と書いている児童の割合が高かった。二つの図形の高さを正しく捉えることができず、このままでは比べることができないという判断をしたためと考えられる。

**4(1) 本市の正答率：36.6%（全国の正答率：46.0%）**

<問題の概要>

- ・割合が30%になるものをア～オから2つ選ぶ問題。

（正答 ウ・エ）

<出題の趣旨>

- ・百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。

- |   |                   |
|---|-------------------|
| ア | 100人をもとにした0.3人の割合 |
| イ | 100人をもとにした3人の割合   |
| ウ | 100人をもとにした30人の割合  |
| エ | 10人をもとにした3人の割合    |
| オ | 30人をもとにした1人の割合    |

<解答状況>

- ・正答の「エ」を選ぶことができているが、「ウ」を選ばず、「アまたはイ」を選んだ児童の割合が24.8%であった。10人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることはできているが、100人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることはできていないためと考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることはできている。
- 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることはできている。
- 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることはできている。
- 正三角形の意味や性質について理解できていない。
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができていない。
- 百分率で表された割合について理解できていない。

【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

◇目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする

目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが大切である。

指導にあたっては、実際に正三角形や二等辺三角形をつくる活動を取り入れ、テープを折って切った直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考える場面を設定していきたい。

◇底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。その際、等積変形で平行四辺形を長方形に帰着させたとき、長方形の縦と横が、元の平行四辺形の底辺と高さに対応することを理解できるようにしていきたい。さらに、図形の面積を求めるためにどの部分の長さが必要であるかを判断する活動も授業の中で設定し、必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにしていきたい。

◇百分率で表された割合について理解できるようにする

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。例えば、30%を「30人をもとにした1人の割合」と捉えている場合、30人を基準量としたとき、10%が3人であることから、30%が9人であることを確かめ、誤りに気付くことができる指導を充実していきたい。

### 3 中学校 国語

#### 【よくできていた問題】

#### 1 一 本市の正答率：83.9%（全国の正答率：87.5%）

<問題の概要>

- ・インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして、適切なものを選択する問題。  
(正答 1)

<出題の趣旨>

- ・ 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる。

#### 1 四 本市の正答率：83.1%（全国の正答率：82.5%）

<問題の概要>

- ・インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。  
(正答例 星野さんのお話を伺い、自分とは異なる考えや見方を生かすことの大切さが分かりました。私も社会で働くときには、仲間と話し合うことを大切にしようと思いました。)

<出題の趣旨>

- ・ 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

#### 2 一 本市の正答率：89.8%（全国の正答率：91.1%）

<問題の概要>

- ・「落胆する」という語句の意味として、適切なものを選択する問題。  
(正答 4)

<出題の趣旨>

- ・ 事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

#### 4 一 本市の正答率：82.0%（全国の正答率：82.5%）

<問題の概要>

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。  
(正答 いいける)

<出題の趣旨>

- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

3 一 本市の正答率：49.3%（全国の正答率：54.3%）

<問題の概要>

- ・レポート中のことばである「もち」を「もったため」に直した意図として、適切なものを選択する問題。（正答 4）

1. はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

（選択肢）

- 1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
- 2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
- 3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
- 4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。

<出題の趣旨>

- ・ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 誤答の中では、「3」と解答した生徒の割合が高く、31.9%であった。
- ・ 誤答「1」～「3」は、「もち」を「もったため」に直すことにより、「『判じ絵』を調べることにした理由」が明確になることを理解できていないと考えられる。

3 二 本市の正答率：29.9%（全国の正答率：43.9%）

<問題の概要>

- ・ 漢字を書く問題。（正答 押し）

…知っていることをもとに「おし量って考える」ことが必要に…

<出題の趣旨>

- ・ 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 「押し」とする誤答が目立った。

**3 三 本市の正答率：57.1%（全国の正答率：61.8%）**

<問題の概要>

- ・文章を内容のまとまりで二つに分ける箇所として、適切なものを選択し、また、後半のまとまりに付ける見出しを書く問題。

（正答例）分ける箇所（ウ），見出し「『判じ絵』の歴史」・「『判じ絵』の起源と広がり」など

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

（ア）ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読するには、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」ことが必要になる。（イ）言ってみれば、なぜなぞやクイズのようなものである。（ウ）また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。（エ）そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。（オ）さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



【図1】サル

<出題の趣旨>

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・内容のまとまりで二つに分けることはできているが、後半の内容に合う見出しを書くことができていない解答の割合は、11.1%であった。（ウ）以降が、「『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのか」という説明であることを理解し、それに応じた見出しを書くことができていない。

**4 三 本市の正答率：51.0%（全国の正答率：50.0%）**

<問題の概要>

- ・古典の「竹取物語」を現代語で書いた作家・星新一の工夫について、文中の表現を取り上げて書く問題。

（正答例）「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

<出題の趣旨>

- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・解答類型3が18.6%，無解答が18.3%と高い割合であった。
- ・解答類型3は、どのように工夫されているのかを書くことはできているが、どこが工夫されているのかについて、表現を取り上げて書くことができていない。誤答例は、下のとおりである。
- （例）・具体的に書いて、読者が想像しやすいようにしている。
- ・登場人物に親しみがわくような表現の工夫をしている。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 目的や場面に応じて質問する内容を検討することはできている。
- 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することはできている。
- 事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することはできている。
- 読み手の立場にたって、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。
- 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。
- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに課題がある。
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

◇読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることが大切である。

指導にあたっては、既習の知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめるような学習活動を取り入れたい。

◇漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

漢字の学習においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、指導にあたっては、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習の中でも漢字の書きについて意識するよう指導を行いたい。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養いたい。

◇具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。

具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。これらのことを踏まえ、例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導したい。その際、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが有効である。

例えば、事実や調べたことを基に自分が考えたことを伝える文章を書く際に、段落相互の関係を具体と抽象の関係という観点で見直し、文章の構成や展開を検討したり、内容で分けた文章のまとまりに小見出しを付けたりする学習活動などが考えられる。

#### ◇「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する

生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことが大切である。

指導にあたっては、教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などを取り入れることが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうように指導したい。

また、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(2)に示されているような「ウ学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。」などとの関連を図り、生徒自身が、教科書に掲載されている古典作品をさらに楽しむための本を手に取り、紹介し合う学習活動なども考えられる。

## 4 中学校 数学

### 【よくできていた問題】

2 本市の正答率：82.7%（全国の正答率：80.5%）

<問題の概要>

・  $12\left(\frac{x}{4} + \frac{y}{6}\right)$  を計算しなさい。（正答  $3x + 2y$ ）

<出題の趣旨>

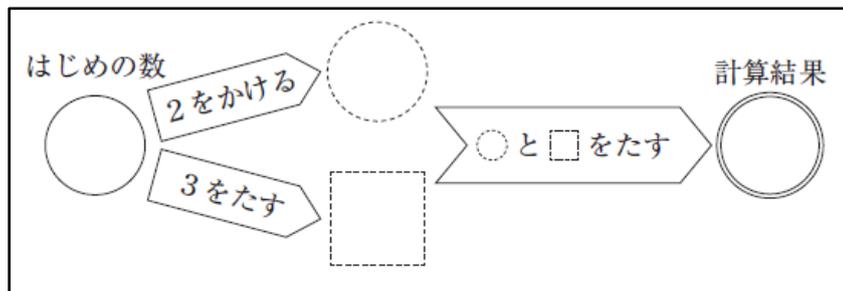
・ 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる。

6(1) 本市の正答率：86.5%（全国の正答率：88.9%）

<問題の概要>

・ 図1で、はじめの数が11のときの計算結果を求める問題。（正答 36）

（図1）



<出題の趣旨>

・ 問題場面における考察の対象を明確にとらえることができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

1 本市の正答率：40.9%（全国の正答率：46.1%）

<問題の概要>

・ア～オの数の中から自然数をすべて選ぶ問題。（正答 ウ，オ）

ア -5， イ 0， ウ 3， エ 4.7， オ 9

<出題の趣旨>

・自然数の意味を理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

・自然数は「正の整数」のことである。これは中学1年で取り扱う内容であり、基本的な知識である。しかし、「0」を自然数とした誤答（解答類型3及び4）の割合は39.3%であり、これは誤答に占める割合の66.4%となっており、自然数の意味の理解が不十分であると考えられる。

3 本市の正答率：23.6%（全国の正答率：30.4%）

<問題の概要>

・空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、ア～エから1つ選ぶ問題。（正答 エ）

ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。

イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。

ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。

エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

<出題の趣旨>

・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

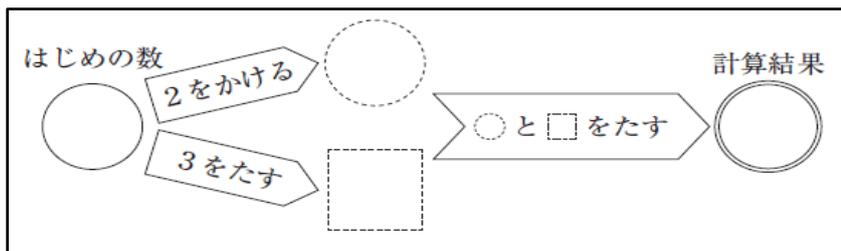
・誤答の大半は「ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。」であった。空間においては、1つの直線上にある3点をふくむ平面は無数に存在するが、空間のイメージが持てず、「1つに決まる」という意味が理解できていないものと思われる。

・ア (9.6%) イ (25.3%) ウ (40.4%) エ (23.6%…正答) と解答が分散していることから、空間における直線や平面についての理解が十分でないことがわかる。

6(3) 本市の正答率：38.4%（全国の正答率：41.0%）

<問題の概要>

(図1)



・図1で、はじめの数としてどんな数をいれても、はじめの数にかける数が2、たす数が4ならば、計算結果が $3n + 4$ となり、いつも4の倍数にはならない。計算結果がいつも4の倍数になるため

に、はじめにかける数がいくつ、たす数がいくつならばよいかを、「～ならば、…になる。」という形で書く問題。

(正答例)

- ・はじめの数にかける数が3, たす数が4ならば, 計算結果はいつも4の倍数になる。

<出題の趣旨>

- ・ 結論が成り立つための前提を, 問題解決の過程や結果を振り返って考え, 成り立つ事柄を見だし, 説明することができるかどうかをみる。

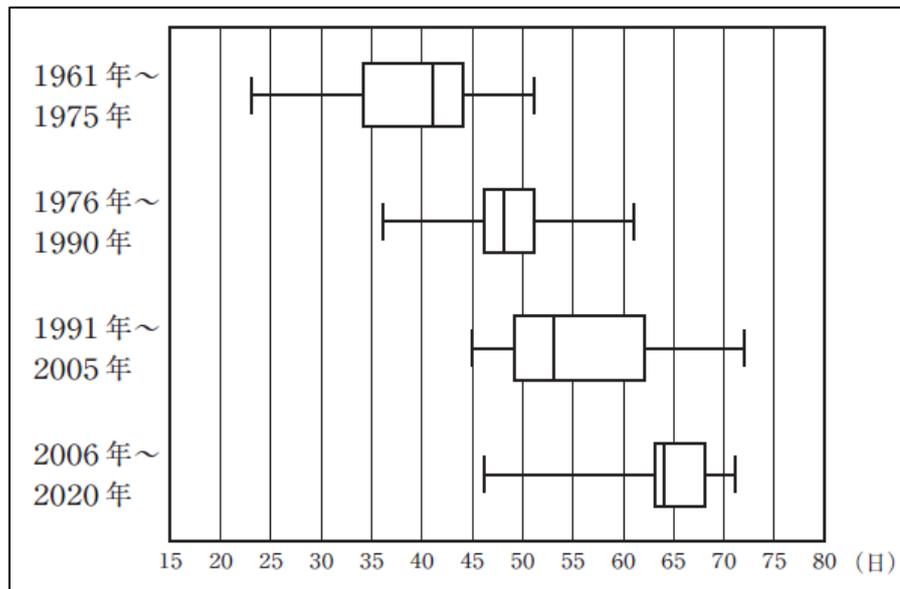
<解答状況>

- ・はじめの数にかける数を3以外の数にした解答が多かった。
- ・解答類型 99 が 23.4%, 無解答が 25.0%と高い割合であった。

## 7(2) 本市の正答率：32.4% (全国の正答率：33.6%)

<問題の概要>

- ・黄葉日までの経過日数の分布についての箱ひげ図をみて答える問題。



「2006年～2020年の黄葉日は, 1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。」と主張できる理由を, 2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

(正答例)

- ・1991年～2005年の箱ひげ図の箱より, 2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって, 2006年～2020年の黄葉日は, 1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

<出題の趣旨>

- ・ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・「2006年～2020年の黄葉日は, 1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。」というためには, その決め手となる理由 (特徴) を述べなければならない。この設問の場合, 「箱ひげ

図の箱の位置」または「一方の第1四分位数と他方の第3四分位数の比較」などである。

- ・誤答として多かったのは「第1四分位数同士で比較した」「中央値のみを比較した」「最大値や最小値を比較した」などである。
- ・解答類型 99 が 16.2%, 無解答が 22.3% と高い割合であった。

### 8(3)本市の正答率：44.8% (全国の正答率：42.8%)

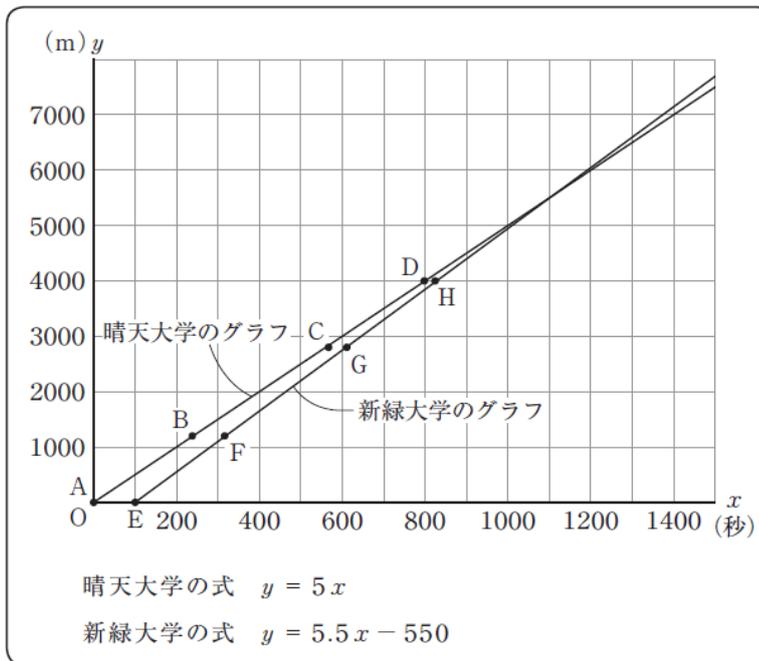
<問題の概要>

- ・新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるのかを求める方法を説明する問題。グラフに着目または式に着目するかを選択して説明する。

(正答例1 グラフを選択)

- ・2つの大学のグラフの交点から、y座標を読み取り、スタート地点からおよそ何mの地点で追いつくかを求める。

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



(正答例2 式を選択)

- ・2つの大学の式を連立方程式として解き、yの値を求め、スタート地点からおよそ何mの地点で追いつくかを求める。

<出題の趣旨>

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・この設問のポイントは、「yの値を読み取る」または「yの値を求める」であるが、そのポイントをしっかりと押さえている解答は少なかった。(解答類型1 3.3%, 解答類型7 6.6%)
- ・「求める方法」を説明する設問は、毎年のように出題されているが、「実際に何mかを求める必要はない」と問題文にあるにも関わらず、実際に計算してグラフの交点を求めたり、連立方程式を解いて求めたりする解答が目立った。
- ・普段の授業で扱う練習問題や模試などでは、「何mの地点かを求める」ことがほとんどで、「求め方を説明する」ということを重要視していないことが伺える。

9(1) 本市の正答率：29.1%（全国の正答率：32.1%）

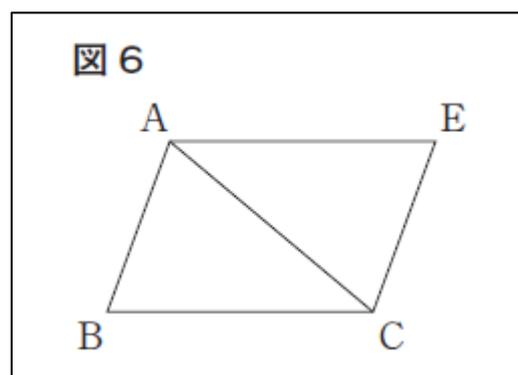
<問題の概要>

- ・図6において、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$  をもとにして、 $BC \parallel AE$  になることを証明する問題。
- ・この設問では問題文に「同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できる」と、証明の方針が示されている。

(正答例)

- ・ $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$  より、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle BCA = \angle EAC$

よって、錯角が等しいから、 $BC \parallel AE$



<出題の趣旨>

- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・この問題は、2つの合同な三角形の性質や図形の基本的な性質（平行線になるための条件）を根拠として、新たな事柄が成り立つことを証明する問題である。また、設問の中に、「 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$  をもとにして」「同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できる」と、証明の方針が示されている。その意味では、証明問題としての難易度は低いが、満足できる解答は少なかった。
- ・四角形 ABCD が平行四辺形であることを導く証明も見られた。

9(2) 本市の正答率：32.7% (全国の正答率：37.0%)

<問題の概要> (正答 I③, II④)

図7

BC // AFであることは、次のように証明できます。

証明1

△ABC ≡ △AEFより、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、  
 $AB = AE$  ……①  
 $\angle ABC = \angle AEF$  ……②  
 △AEFにおいて、二等辺三角形の底角は等しいから、  
 $\angle EAF = \angle AEF$  ……③  
 ②、③より、  
 $\angle ABC = \angle EAF$  ……④  
 また、①より、△ABEは二等辺三角形である。  
 二等辺三角形の底角は等しいから、  
 $\angle ABE = \angle AEB$  ……⑤  
 $\angle ABE = \angle ABC$ だから、④、⑤より、  
 $\angle EAF = \angle AEB$   
 よって、錯角が等しいから、  
 $BC // AF$

図8

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないから、 $BC // AF$ とならない。

上の **I** には証明1の①、②、③のどれか1つが、**II** には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

・この問題は、まず、図7で2つの△ABCと△AEFが合同な二等辺三角形の場合に、 $BC // AE$ が成り立つことを証明したうえで、図8のように、2つの三角形が二等辺三角形ではない合同な三角形の場合では、 $BC // AE$ が成り立たないことの原因を明らかにする問題である。

<出題の趣旨>

・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・この問題は、2つの合同な二等辺三角形なら成り立つが、二等辺三角形ではない2つの合同な三角形では成り立たないということを明らかにする問題であるが、証明1において「二等辺三角形だから成り立つ」という根拠にあたる部分が理解できていない。
- ・普段から「成り立つ理由」を考えることが多く、「成り立たない理由を明らかにする」ということの経験が少ないのも正答率に反映しているものと考えられる。
- ・解答類型99が17.3%、無解答が15.4%と高い割合になっている。このことから、問われていることが理解できなかった生徒が多いということも考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 数と整式の乗法の計算をすることはできている。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。
- 自然数の意味の理解に課題がある。
- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの理解に課題がある。
- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明することに課題がある。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて説明することに課題がある。
- 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

◇数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにするとともに、数の範囲に着目して様々な事象を考察し、表現することができるようにする。

数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、自然数や整数の意味を理解できるようにすることや、数の範囲に着目して様々な事象を考察し、表現する場面では、自然数や整数の意味を理解した上で、数の範囲を拡張して考えることができるようにすることが大切である。小学校算数科においては、整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学科では、負の整数を加えて、整数を正の整数（自然数）、0、負の整数と捉え直し、整数の意味についての理解を深め、第3学年の有理数や無理数の学習において数の集合を捉え直すことになる。

指導にあたっては、新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を効果的に取り入れるようにしていきたい。

◇空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを観察や操作などの活動を通して理解できるようにする。

空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、空間における平面が一つに決まる条件として、「2点を含む平面は一つに決まる。」や、「一つの直線上にある3点を含む平面は一つに決まる。」など、条件として不十分なものを取り上げ、平面が一つに決まるにはさらにどのような条件が必要かを考察する活動を取り入れたい。また、一つの直線を含む平面が幾つもあることを捉え、その上で、同一直線上にない3点で平面が一つに決まることを確認することができる具体例（カメラの三脚が、安定して立つことができるのはどうしてかなど）を取り上げる。その理由の考察を通して空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解できるように指導したい。

**◇結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。**

予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数や文字式を用いて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、例えば、設問6(3)の図1と図2において、たす数が「3」や「6」のとき計算結果が3の倍数になったことから、かける数「2」は変えずに、たす数を「4」や「8」に変えると計算結果が4の倍数になるのではないかと予想する場面を取り入れる。その上で、具体的な数や文字式を用いて予想した事柄が成り立つかどうかを調べる活動を設定することが考えられる。このように、それまでの問題解決の過程や結果を振り返って考察し表現する活動を授業の中で効果的に設定していきたい。

**◇データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。**

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが大切である。設問7(2)においては、判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることや、複数の箱ひげ図を比較した際に箱の位置が右側にあるほど、黄葉日が遅くなっている傾向にあると捉えられるようにすることが大切である。

授業においては、日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、読み取ったデータの特徴を根拠としてよいかどうかを考えるなど、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させていきたい。

**◇問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。**

様々な問題を、数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるように指導する。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだすなど、日常生活や社会の事象の考察や問題解決に数学を活用しようとする態度を育成していきたい。

また、日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することなど、問題解決の過程を振り返り、関数を活用することのよさを実感できるように指導していきたい。

**◇事柄が成り立つことについて、構想を立て、それに基づいて証明することができるようにするとともに、証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察することができるようにする。**

事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できることが重要である。また、ある事柄

の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができる必要がある。

授業においては、図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして統合的・発展的に考察することができるように指導する。また、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察することができるようにしていきたい。

こうした活動を通して、自ら条件を変えた場合について考察しようとしたり、数量や図形の性質を成り立たせる本質的な条件を見いだそうとしたりする態度を育てていきたい。

## 5 中学校 英語

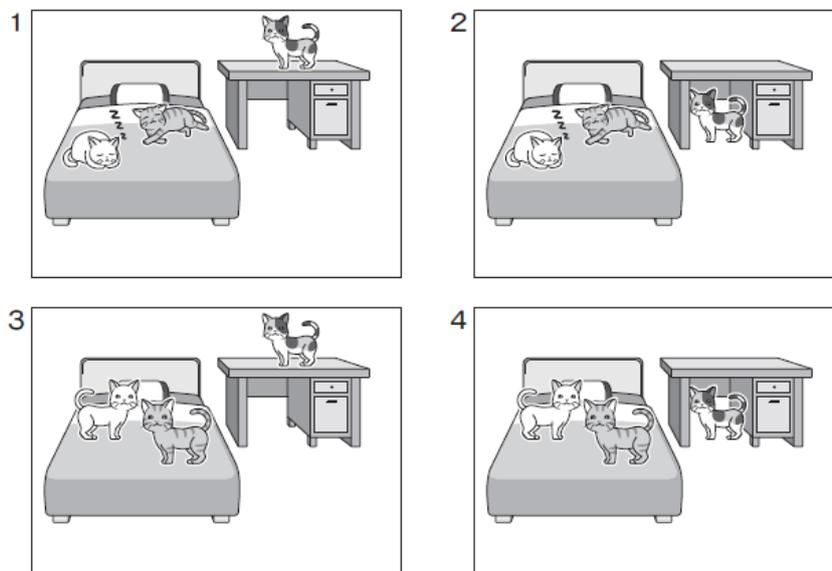
### 【よくできていた問題】

1(1) 本市の正答率：83.8%（全国の正答率：79.0%）

<問題の概要>

・（放送問題）ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題。

（正答 2）



<出題の趣旨>

・ 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

5(2) 本市の正答率：65.4%（全国の正答率：64.5%）

<問題の概要>

・ 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題。（正答 4）

There is a mountain in our city. It is 815 meters high. I went there  
1 2  
this summer with my family. I saw a lot of garbage. I was surprised to  
see it. We cleaned the place for about 30 minutes. Everyone should  
3 4  
bring their garbage back home.

<出題の趣旨>

・ 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

6 本市の正答率：29.7%（全国の正答率：35.9%）

<問題の概要>

- ・友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する問題。



（正答 3）

<出題の趣旨>

- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・誤答として、「4」を選んでいる割合が最も高く、39.3%であった。
- ・メール文の「I have to leave 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.」を読み取ることができていないと考えられる。
- ・1（17.9%）2（12.6%）3（29.7%…正答）4（39.3%）と解答が分散していることから、英文から必要な条件を読み取ることが十分にできていないと考えられる。



7(2) 本市の正答率：30.2%（全国の正答率：34.7%）

<問題の概要>

- ・図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する問題。

（正答 1）

<出題の趣旨>

- ・日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる。

- 1 The library in the town is more creative than before. We can do a lot of things there. There are many kinds of spaces, too. The library can connect people.
- 2 There are many kinds of spaces in the library. People can relax and read books anywhere. The library can connect people. We can ask the library staff questions.
- 3 The library in the town is more creative than before. There are many kinds of spaces. In small rooms, people can study or work very hard. The library can connect people.
- 4 The library in the town can connect people. We can ask the library staff questions. Parents can become friends with each other while the kids are reading together.

<解答の状況>

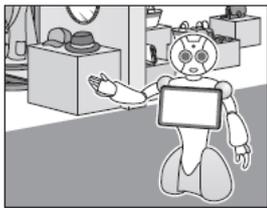
- ・ 1 (30.2%…正答) 2 (25.8%) 3 (29.7%) 4 (14.0%) と解答が分散している。  
「2」…第2段落と第3段落の情報のみで構成されている英文  
「3」…第1段落の主となる情報が不足している英文。第2段落の内容についての具体的な情報が含まれた英文  
「4」…第3段落の情報のみで構成されている英文
- ・ 全体の文章の主となる部分を要約したものを選ぶことができず、一部分の段落の内容に偏ったものを選んでいると考えられる。

**8(2) 本市の正答率：15.7% (全国の正答率：19.5%)**

<問題の概要>

- ・ ロボットについて書かれた英文を読み,書き手の意見に対する自分の考えとその理由を,英語で簡潔に書く問題。  
(正答例) I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



<出題の趣旨>

- ・ 社会的な話題に関して読んだことについて,考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

<解答状況>

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。

- ① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
- ② ①の理由を書いている。

- ・正答の中で、「条件①②を満たし、正確な英語で解答しているもの」の割合は2.5%、「条件①②を満たし、おおむね正確な英語で解答しているもの」の割合は13.2%であった。
- ・誤答として「条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの」を選んだ割合が28.3%で最も高かった。自分の立場は明らかにできても、その理由を英文で書くことに難しさがあったと考えられる。
- ・無解答が26.1%であったことから、そもそも何を書いたらよいのかわからなかったり、自分の考えが思い浮かんでもそのことを英文で書くことが難しかったりすることが考えられる。

**9(1)② 本市の正答率：19.2%（全国の正答率：20.9%）**

<問題の概要>

- ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題。

<友達同士の会話>

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (        buy        ) the watch?

B : At a department store near the station.

(正答例) Where did you buy

<出題の趣旨>

- ・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・誤答として、「疑問文を書いていないもの」の割合が27.7%、「疑問詞（where）を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形以外の疑問文を書いているもの」の割合が27.2%と高かった。
- ・友達同士の会話を読んで内容が十分に理解できず、疑問文を書かなければいけないことが理解できていないと考えられる。

9(2) 本市の正答率：22.8%（全国の正答率：20.9%）

<問題の概要>

- ・メールの英文を、依頼する表現に書き換える問題。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,  
  
How are you?  
  
We have a speech contest next Friday.  
The speech contest starts at 10:00.  
You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

（正答例） Can you come to the speech contest?

<出題の趣旨>

- ・「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・正答の中で、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書いているもの」の割合は11.8%、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解しているが、命令文を用いた表現となっているもの」の割合は9.6%、「依頼する表現を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの」の割合は1.4%であった。
- ・「相手の行動を促す」という言語の働きを理解できず、依頼する表現を書くことができていない割合が42.6%と高かった。
- ・無解答が25.8%であったことから、メール文の下書きの一部を読んで何が書かれているのかを理解できていなかったり、何を書いたらよいか理解できても正しく英文で書くことが難しかったりしたと考えられる。

10 本市の正答率：5.8%（全国の正答率：7.5%）

<問題の概要>

- ・学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題。

（正答例） Our school has a school festival in October.

In the festival, we have chorus contest and we practice hard to win the gold prize.

Many people come to listen to our songs.

<出題の趣旨>

- ・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

## <解答状況>

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。

- ① 学校生活(行事や部活動など)の中から1つ取り上げている。
- ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。
- ③ 25語以上の英語で書いている。

- ・正答の中で、「条件①②③を満たし、正確な英語(語や文法事項等の誤りが無い)で解答しているもの」の割合は0.3%であった。「条件①②③を満たし、おおむね正確な英語(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りが無い)で解答しているもの」の割合は5.5%であった。
- ・条件①②③を満たしているが、伝えたいことを正しい英文で書くことができていない割合は36.0%と高かった。
- ・無解答の割合は14.8%であり、長めの英文を書くことに抵抗感があると考えられる。

### 【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ある状況を描写する英語を聞き、情報を正確に聞き取り、その内容を最も適切に表している絵を選択することはできている。
- 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことはできている。
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。
- 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることに課題がある。
- 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。
- 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題がある。
- 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題がある。
- 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

### 【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

#### ◇自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることができるようにする

自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取ることが大切である。

指導にあたっては、例えば、取扱説明書から必要としている説明を読み取るような言語活動を充実させていきたい。また、できるだけ現実に近い場面を設定しながら、自分が必要とする情報を読み取るなど、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導もしていきたい。

#### ◇説明文を読んで、概要を捉えることができるようにする

説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが大切である。

指導にあたっては、例えば、短い説明や物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりするような言語活動を充実させていきたい。

#### ◇読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにする

読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが大切である。

指導にあたっては、例えば、教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書くような言語活動を充実させていきたい。

#### ◇場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにする

場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。

指導にあたっては、文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりするような言語活動を充実させていきたい。

#### ◇言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けることができるようにする

言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが大切である。

指導にあたっては、例えば、教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読するような言語活動を充実させていきたい。

#### ◇テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書くことができるようにする

テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが大切である。

指導にあたっては、例えば、学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書くような言語活動を充実させていきたい。

言語活動を行うにあたっては、書く内容を目的に応じて選んだり、書き表したものをペアで読み合い、言語面での気づきを共有したりするなど、それぞれの言語活動を関連付けながら段階的に指導していきたい。

## Ⅱ 児童・生徒質問紙調査の回答状況より

児童・生徒質問紙調査の中から、いなべ市学校教育目標「いなべの明日を担う 心豊かで たくましい子どもの育成」に関わる項目について、その回答状況を三重県及び全国と比較してまとめたところ、以下のような結果であった。

<小学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	83.9	+2.0	+0.4
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	92.1	+2.0	+1.1
将来の夢や目標を持っていますか	84.8	+4.2	+3.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.3	+0.2	+0.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.5	+1.2	+1.3
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.3	+2.4	+3.5
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	84.2	+5.1	+5.4
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	83.1	+5.6	+5.7
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。	85.1	+3.7	+3.2
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	82.8	+9.0	+5.6
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.1	+0.8	+0.6

<中学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	80.8	-0.1	+0.8
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	92.6	+4.7	+5.8
将来の夢や目標を持っていますか	67.7	+0.8	+1.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.0	+0.4	+0.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.4	+4.2	+5.3
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	75.1	+6.3	+11.2
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	89.0	+7.4	+9.8
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	76.1	+3.3	+6.9
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。	76.1	+4.3	+6.2
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	86.3	+6.9	+8.4
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	83.1	+3.7	+5.5

【まとめ】

○小学校はすべての項目について、中学校はほぼすべての項目について、肯定的な回答率が高い値となっており、全国や三重県と比べても高い結果であった。これは、教職員や保護者、地域の方々が「自分の夢や目標を持ち、多様な人とのつながりながら、心豊かに、たくましく生きていってほしい」という子どもたちへの願いで繋がり合い、学校・家庭・地域が一体となって進めている本市の教育の成果であると捉えたい。

○小学校では特に、「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか」の回答率が、三重県より10ポイント近く高くなっている。また、中学校では特に、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の回答率が、全国より10ポイント以上高くなっている。義務教育の9年間の積み重ねの結果であると捉えたい。

### Ⅲ 学校質問紙調査（小学校）の回答状況より

学校質問紙調査の結果から、全国の回答状況と比較して特に差の大きかった項目についてまとめるところ、以下のような結果であった。今後は、強みをさらに伸ばし、弱みを克服するための取組を行っていきたい。

【強み】 80%以上の学校が肯定的に回答し、全国との差が+10ポイント以上となった質問項目

N0	質問事項	いなべ市	全国差
27	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	90.9	+11.9
54	コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	100.0	+12.6
67	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	81.8	+21.2
68	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	90.9	+32.7
69	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	81.8	+28.2

【弱み】 肯定的に回答した学校が80%未満で、全国との差が-10ポイント以上となった質問項目

N0	質問事項	いなべ市	全国差
24	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	72.7	-11.5
26	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	72.8	-16.1
32	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	72.8	-21.5
35	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	63.7	-21.9

## IV いなべ市の取組について

### 1 小中一貫教育の推進

義務教育の9年間の学びと育ちを見据え、発達段階や教育上の課題に応じた、一貫性のある系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を、小中一貫教育を手法として進めていきます。

### 2 NRTの実施

毎年4月、小2年生～中3年生を対象に、NRT（標準学力検査）を実施しています。前学年の学習内容における学力の定着状況を明らかにし、児童生徒の「強み」「弱み」に基づいた効果的な学習指導の在り方を検証していきます。

### 3 指導主事等による学校訪問

教職員の指導力向上を図るため、指導主事や学力向上特別指導員を派遣し、授業改善のための指導・助言を行います。

### 4 教職員の研修

いなべ市教育研究所による研修講座を充実させ、教員の指導力等の向上に努めるとともに、いなべ市教育研究会と連携して研究・研修活動の充実を図っていきます。

## V 各学校における学力向上の取組について

### 1 学級集団づくり

自尊感情や学習意欲の向上を図るため、その土台となる学級集団づくりに取り組みます。特に、年間2回実施しているQ-U（学級満足度調査）を活用し、一人ひとりの規範意識を高めるとともに、友だちに寄り添い、互いに高まり合えるいじめのない学級集団づくりを進めていきます。

### 2 授業改善

授業改善を主とした「授業づくり研修」を行い、指導の在り方を検討したり、新しい授業方法に挑戦したりしていきます。研修を通じて学んだことは、それぞれの教職員の指導に活かしていきます。

### 3 NRT、全国学力・学習状況調査等の分析

NRTや、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果分析により、児童生徒の学力状況を細かく分析し、明らかになった課題を克服するため日々の授業改善に努めます。

### 4 生活習慣づくり

児童生徒の健やかな成長のため、規則正しい生活習慣づくりに努めます。特に、学習習慣の定着や、メディアとの接触及び携帯・スマートフォンの使用における家庭でのルールづくりにおいて、学校・保護者・地域と連携した取組を実施していきます。